



伊豆市

No.46

議会だより

発行:伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集:議会広報委員会
〒410-2413 静岡県伊豆市小立野38-2 TEL 0558-72-9906 2015.11.1発行

市内小学校秋の運動会

土肥小 『楽しさ全開
赤対白の大決戦
優勝めざしてがんばろう!』



東小 『チームのみんなで 一致団結
優勝目指して つき進め!』



南小 『挑戦しないと始まるな
自分に負けるな 南っ子!』



天城小 『運動会 がやく絆を
勝利をつかめ!』



中伊豆小 『見せろ!中っ子の一生懸命
仲間を信じて勝利をつかめ!』

目次 CONTENTS

■ 9月定例会の概要	2
■ 一般質問	8
■ 行政視察報告	12
■ 8月臨時議会の概要	13
■ 議会基本条例(案)等意見募集	14

一般会計の歳出総額は、 164億9,731万円でした。

平成26年度各会計決算総括表



平成26年度決算の認定

会計名		歳入	歳出	差引き額
一般会計		178億5,928万円	164億9,731万円	13億6,197万円
特別会計・企業会計	公共用地取得事業	3,721万円	3,691万円	30万円
	国民健康保険	50億1,586万円	47億3,927万円	2億7,659万円
	後期高齢者医療	3億6,256万円	3億6,040万円	2,159万円
	介護保険	32億1,993万円	31億34万円	1億1,959万円
	簡易水道事業	4億4,307万円	3億8,987万円	5,320万円
	下水道事業	12億9,972万円	12億6,469万円	3,502万円
	農業集落排水事業	1億4,705万円	1億2,891万円	1,813万円
	財産区（7財産区）	743万円	196万円	546万円
	水道事業	8億6,116万円	5億9,234万円	2億6,882万円
	温泉事業	8,667万円	5,315万円	3,352万円

各常任委員会の審査では
次のような質疑がありました

◆一般会計歳入歳出決算の認定

問 光ファイバ網整備事業の成果は。また、結果として、この地区に新たな事業所が増えたのか。

答 平成27年3月末時点で1千364世帯、32.7パーセントの加入実績が報告されています。これは、当初平成27年度末加入見込みが1千97世帯でしたので、見込みを既に上回っているという実績です。また、事業所の加入については、NITからの開示がないため把握していません。

問 若者交流支援事業委託先のサプライズという団体は何を目的にしている団体なのか。また、gizuという施設は何を目的とした施設なのか。

答 サプライズは伊豆地域及び静岡県東部地域の活力ある社会の実現に寄与することを目的に設立されたNPO法人です。また、gizuは、若者の交流する場所づくりを目的とした施設で、NPOサ

プライズに施設の管理運営を委託しています。

問 サイクルメッカ伊豆推進協議会負担金1千140万円ですが、協議会の事業内容は。

答 NPO法人伊豆市体育協会が事業主体となり公益財団法人JKAIからの補助金も活用して、ツアー・オブ・ジャパン伊豆ステージや伊豆半島一周サイクリング、サイクルフェスティバルを開催する他、協議会として、ペロドローム利活用によるブランド創出やインバウンド誘客事業などを行っています。

※公営競技の競輪とオートレースを統括する国民の健全なる余暇を推進する公益法人



▲ツアー・オブ・ジャパン
伊豆ステージの様

問 企業立地事業補助金で、何㎡の用地を取得し、いくら補助をしたのか。また、何人の雇用に対してだけの補助を行ったのか。

答 対象の土地は大平地区にありますが、合計面積は6千50.94㎡で、補助金は1千281万1千円です。雇用については、市内から4名、県外から1名の雇用で、市内雇用については1人50万円、県外は25万円ということと合計225万円の補助を行いました。

問 柿木処分場の現状と今後の見込みは。

答 衣類等の分類形態を別にしたことにより、燃やせるごみの量がマイナスとなりました。

平成25年度の調査で、使用期限は、平成29年3月終了の予定でしたが、現状では埋め立て予定の数値を下回っているため、再度、来年度に調査を行い、使用期限の延命を検討したいと考えています。

問 胃がんリスク検査について、受検者の判定内訳と今後の追跡指導は、どのように考えているのか。

答 A判定（異常なし）は45%、

B判定は30%、C判定は25%となっています。BとC判定の方は、要精密検査の対象となるため、医療機関で受診し、その結果をいただいています。

実施した方の情報は、健康管理システムに登録をしますが、継続的な指導管理については今後検討していく課題だと考えています。



問 中学校再編事業 基本構想策定業務委託料 76万8千200円について、どのようなものを策定するのか。

答 まだ、具体的な図面等はありませんが、学校の規模にあわせ、子どもたちに必要な教室数やグラウンドなどについて、ある程度の基本部分を策定するというものです。

◆国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定

問 医師会との連携における取り組みについて詳細な説明を。

答 年1回、地元の医師と市長も交えた地域医療懇話会を開催し、地域医療の現状、認知症対策、災害時の救護活動や生活習慣病などの意見交換をしながら顔の見える関係づくりをしています。

県モデル事業の糖尿病重症化予防では、市が抽出した対象者に家庭訪問をし、医療機関への受診につなげ、その後、医療機関から結果をいただく体制づくりなど、主治医とも連携をとりながら進めているところ です。

◆下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定

問 公共下水道事業の今後の計画は。

答 修善寺地区は、大平地区の完成後、ニュータウン地区を進めたいと考えています。中伊豆地区は現在、城地区の工事を進めています。これで一旦事業を止め、接続率を確保した上で次を考えていきたいと思っています。

◆公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定

問 御幸橋駐車場用地を観光協会に、年間120万円で貸し付けているが、年間の駐車場使用料収入に対し、貸付料が安すぎるため、見直す考えはないのか。また、駐車場使用料の収入額と管理経費との差額を返納させるつもりはないのか。

答 伊豆市観光協会は、公共的な団体であり、駐車場使用というのは地域のための公益的の事業であるため、条例の規定に基づき減額して貸付を行っています。貸付料は収入としてみていますので差額の返納ということは考えていません。



▲御幸橋駐車場

討 論

平成26年度一般会計 歳入歳出決算の認定

反対討論 (西島 信也議員)

● サイクルメッカ伊豆推進協議会に毎年千数百万円を支出しているが、活動内容が不透明。

この団体の代表者は、菊地市長だが、組織の実態は明らかにされていない。

補助金は、ツアー・オブ・ジャパン伊豆ステージ等の開催やブランド創出事業に使ったとのことだが、まともな説明がない。

賛成討論 (大川 明芳議員)

● 厳しい財政環境の中、当局は自主財源をはじめ地方消費税、県支出金、市債等の依存財源の確保に最大の努力をされました。歳出においては、管理経費の節減に努力された跡が随所にみられ、財政運営の効率化、健全化に細心の注意をはらったのがこの決算であり、評価するところであります。

反対討論 (森 良雄議員)

● 我が町には、村八分があります。伊豆市には愛がありません。

口から出まかせ。実行がともなわれない。行き当たりばったりの思いつき政策。

伊豆市に群がる補助金狙いにむさぼられた決算です。自然破壊の決算です。

将来予測ができていません。伊豆市には希望はありません、市長の自己満足の決算です。

賛成討論 (小長谷順二議員)

● 活力ある伊豆市を創りだすには、個別事業の実績と成果を総合的な政策として打ち立てていただき、これからの時代の変革の中で、行政が保有する情報・知見・ノウハウを活用し、民間の人材や職員の英知を集結して、民間的経営手法と経営感覚を持ち、大胆且つ意欲的な政策完遂と行政運営・予算編成を期待して賛成討論と致します。

反対討論 (木村 建一議員)

● 合併時の貯金は72億円。それ以降、落ち込んだが、平成26年度は79億円。合併時の市民税は16億円。平成18年度18億円をピークに下がって、平成26年度は15億円。大きな視点から見た時、貯金は確実に増え市民のくらしに改善は見られない。人口減少対策にふさわしい取り組みだったのか、見つけ直す必要があると思います。

平成27年度補正予算

◆ 一般会計補正予算(第3回)

文教ガーデンシティ事業に係る業務委託、医療体制強化のための市内公的病院等補助金、新ごみ処理施設の用地取得に係る廃棄物処理施設組合負担金、都市計画見直しに係る協議資料作成業務委託のほか、前年度繰越金を積み立てるための基金積立金など、総額8億3千490万円を増額するもの。

◆ 国民健康保険特別会計補正予算(第2回)

平成26年度退職者医療交付金の精算に伴い、交付金の超過額を支払基金に返還するため、2千189万4千円を増額し、歳入・歳出予算額を53億3千869万4千円とするもの。

**27年度一般会計は、
総額 168億445万円
となりました。**

各常任委員会の審査では
次のような質疑がありました

◆一般会計補正予算（第3回）

問 文教ガーデンシティ事業の推進にあたり、住民との話し合いは持たれているか。

答 昨年の6月に地権者に土地の利用に関する意向確認をさせていただきました。ことしの2月には、地権者及び周辺住民に中学校を中心として、こども園や公園、潤いのある住宅地を創造したいという構想があることを説明しました。今年度は、全体の構想を策定する予定なので、ある程度の形が見えた段階で10月頃を目途に、地元の方やその周りの方に説明会を開催したいと考えています。

問 文教ガーデンシティにしようとしている土地は住宅を建てることのできない市街化調整区域であるため、都市計画の線引きを外すことが本当にできるのか。土地利用の規制が未確定の中、8千200万円も投じるのは危険ではないか。

答 線引きの見直しというのはハードルが高いことではありませんが、伊豆市の新しい都市計画検討委員会には、県や国からもメンバーに入っていたいただいており、計画作成を委託した業者もスキルを持った専門のコンサルタントです。したがって、見直しの手続きについても、一つ一つステップアップして進めているところです。

問 特定空き家を解消するためのスケジュールは考えているか。

答 現在、区長をとおして特定空き家等についての調査を行っているところです。その後、地元の職員に対して詳細な調査を依頼する予定でいます。また、この事業は、空き家等対策協議会で意見をいただきながら進めていかなければならないと考えていることから、年内に協議会を開催し、推進計画をことしから来年にかけて作成したいと考えています。

問 市道月ヶ瀬小学校線改良工事ですが、なぜここに道路を造るのか。

答 現在、建設中の福祉施設等へ

の道路が途中までしかないことと、地域の避難場所として指定されている体育館へ接続道路として使用するためです。また、施設の東側にある市道に接続し、地区の周遊を可能にしようというところで計画したものです。



▲市道月ヶ瀬小学校線ができる現場（遠景）

問 市内公的病院等補助金1億6千685万9千円の算定根拠について説明を。

答 伊豆赤十字病院は、不採算地区病院として病床数94床、救急告示病院として病床数3床に対し、各々の基準額を乗じた額と基本額を合計し、1億1千713万9千円の補助金額となります。

中伊豆温泉病院は、リハビリ専門病院として病床数113床に基準額を乗じ、4千972万円の補助金額となります。

討 論

平成27年度一般会計

補正予算（第3回）

反対討論（森 良雄議員）

●12haの農地をつぶします。公共下水道を使うようですが、田代の処理場はなんだったのですか。

住宅開発がどうなるか予測ができませんか。校庭の真ん中に市道を作る考えのない予算。行き当たりばったりの思いつき予算です。伊豆市の将来を悪化させます。人口減少を加速化させる予算です。

賛成討論（青木 靖議員）

●伊豆市では現在、人口減少・少子高齢化対策として、都市計画の見直しやコンパクトタウン＆ネットワーク構想等を軸に、各種の事業を行っている。新たな国からの交付税や県の内陸フロンティアに係る補助金等のタイムリーな利用など、本補正予算で各種事業が適切に進められる。速やかに執行す

る必要があり審議も尽くされてい
る。

反対討論

(西島信也議員)

●市長は文教ガーデンシティ構想
なるものを打ち出している。内容
は、日向地区に12ヘクタールの水
田を市が取得し、新中学校を建設
し、さらには大規模な住宅地分譲
を計画している。

伊豆市は、合併以来毎年500
人ずつ人口が減少している中、私
が思うところ100億円近いお金
をかけて行う必要があるか、また
数百区画もの住宅需用があるのか
おおいに疑問である。

賛成討論

(山田元康議員)

●公有財産管理事業や文教ガーデ
ンシティ事業、伊豆市コンパクト
タウン&ネットワーク構想を現実
のものとする一歩を印す重要な事
業として位置づけられている。

「まち・ひと・しごと創生法」
が成立し、これからますます地域
間競争が激しさを増す中で、スピ
ード感を持ち、限られた財源の中
で時代に即した事業であると評価
します。

反対討論

(木村建一議員)

●庁舎の耐震診断や、月ヶ瀬小学
校跡地に安心できる道路をつくる
ことは当然なことだと思えます。
しかし、新中学校建設を中心とす
る文教ガーデンシティ事業につい
て反対します。この事業は中伊豆
中学、天城中学が廃校となる地域
のまちづくりを同時提案し、地域
住民との意見交換を考えるべきで
す。

報告

◆平成26年度伊豆市健全化判断比
率の報告

◆平成26年度伊豆市資金不足比率
の報告

条例の一部改正

◆情報公開条例及び個人情報保護
条例の一部改正

独立行政法人通則法の改正に伴
い国家公務員の身分をもつ独立行
政法人に関する規定を改正するも
の。

◆個人情報保護条例の一部改正

行政手続における特定の個人を
識別するための番号の利用等に関
する法律、通称「番号法」の施行
に伴い、新たに個人番号を含む個
人情報の取扱について改正するも
の。

◆手数料徴収条例の一部改正

番号法の施行に伴い発行する通
知カードと、来年1月以降に発行
する個人番号カードの再発行に係
る手数料について、所要の改正を
行うもの。

その他

◆指定金融機関の指定

スルガ銀行との指定契約が本年
12月31日をもって満了することか
ら、株式会社静岡銀行を新たな指
定金融機関として指定するもの。
指定期間は平成28年1月1日よ
り平成29年12月31日までの2年間。

◆市道路線の変更

月ヶ瀬小学校グラウンド跡地への
地域福祉施設建設等に伴う路線改
良工事による市道月ヶ瀬小学校線
の終点位置の変更を行うもの。

人 事

◆監査委員の選任

現在、監査委員である宮内千秋
氏を引き続き選任することに同意。
任期は、平成27年10月1日から
平成31年9月30日までの4年間。

**◆人権擁護委員候補者の推薦につ
いて**

鳥沢守司氏とりざわ もりし(土肥)、吉田佐喜雄よしだ さきお
氏(八木沢)が新たに候補者にな
ることに同意。

任期は、平成28年1月1日から
3年間。



平成27年第3回（9月）定例会で審議した議案

■賛否が分かれた議案

件名	議決結果	永岡康司	三田忠男	小長谷朗夫	山下尚之	山田元康	青木靖	大川明芳	梅原正次	小長谷順二	西島信也	森島吉文	室野英子	森良雄	飯田正志	木村建一
----	------	------	------	-------	------	------	-----	------	------	-------	------	------	------	-----	------	------

決算の認定

平成26年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	×
平成26年度伊豆市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成26年度伊豆市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成26年度伊豆市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成26年度伊豆市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
平成26年度伊豆市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
平成26年度伊豆市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
平成26年度伊豆市水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	可決認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×
平成26年度伊豆市温泉事業特別会計剰余金の処分及び決算の認定について	可決認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
平成26年度伊豆市公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
平成26年度伊豆市持越財産区特別会計歳入歳出決算の認定について（7財産区）	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○

補正予算・その他

平成27年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	×
市道路線の変更について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
伊豆市監査委員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
人権擁護委員候補者の推薦について	適任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
安保法制の撤回を求める意見書	否決	○	×	○	○	×	×	○	×	×	○	×	○	×	×	○

※1 ○賛成 ×反対

※2 議長（杉山誠）は、可否同数の裁決以外は、採決に加わりません。

■全会一致で可決した議案等

平成27年度伊豆市国民健康保険特別会計補正予算（第2回）	伊豆市手数料徴収条例の一部改正について
伊豆市情報公開条例及び伊豆市個人情報保護条例の一部改正について	伊豆市指定金融機関の指定について
伊豆市個人情報保護条例の一部改正について	



9月定例会での一般質問は、9月11日、14日の2日間、11名の議員が32件について行いました。質問と答弁を要約してお知らせします。(質問順)

質問

合併効果の現状認識と今後の総合計画を問う



(三田忠男議員)

合併時描いた伊豆市全体の未来像の進捗状況について、現状との比較でどのように認識しているか伺います。

その内、旧中伊豆町内の進捗状況の現状認識については詳しく伺います。

その認識のもと、今後の中伊豆地区の活性化の取り組みを具体的に伺います。

市長 答

効果的な行政運営で、若い力の活用を

伊豆市は、平成17年度に策定した第一次伊豆市総合計画に基づき、着々と新たな市の建設を進めてきました。

この間中伊豆地区においては、八幡の新配水池の整備や特養老人ホーム中伊豆などの社会福祉施設の整備、光ファイバ網の整備などを実施してきましたし、利便性向上に向けたインフラ整備などにも取り組んできました。

今後も、効果的、効率的に行政運営をしていけるような環境整備が必要と考えます。

質問

疑惑はますます高まります。入札の疑惑



(森 良雄議員)

まともな答弁もなく、し尿処理場の入札は疑惑で真っ黒です。官製談合の疑いが高まります。資料で答えてないから質問をしているのです。提供された資料では解らないから質問しているのです。

議長はわかっていますか。しっかりと応えさせてください。市長は真実を隠しています。真っ黒な資料ではなく、入札の事実を伺います。

市長 答

閣議決定文書は、説明済み

品確法に基づく閣議決定に基づいた措置であり、再三説明しています。

閣議決定文書はすでに渡しています。確認していただきたいと思います。

質問

新中学校の校地は、
修善寺中では不都合か



(西島信也議員)

なぜ現在ある修善寺中学校を活用しないで日向の田んぼの中に建設しようとするのか。修中をそのまま使用しては、不都合なことがあるのか。

新中学校を建設するには、40億円もの事業費が必要とされているが、将来の伊豆市の経営が圧迫されないか。

教育長
答弁

第2次学校再編計画で
お示ししたとおり

3中学校の再編につきましては、修善寺駅より近くて、生徒がバス、車等を利用して安全に登校できる場所、かつ部活動等の運動、活動スペースの確保、その後に進める修善寺4小学校の再編の校地として、現の修善寺中学校は考えています。

市長
答弁

総事業費に対し、国の公立学校施設整備費負担金を活用し、この負担金以外のうち95%を合併特例債、5%は一般財源を予定しています。

将来的に、財政を圧迫するとは考えられません。

質問

地域づくり協議会設立
支援と協議会活動事業



(小長谷順二議員)

地域づくり協議会設立には準備委員会の組織を設け、協議会立ち上げの検討を行っていただきます。事務費、勉強会や情報提供等に要する

準備委員会の経費の助成について伺います。土肥地区の地域づくり協議会では産業振興事業のひとつに、「ふるさと納税」の推進を盛り込んでいます。地域出身者に魅力のある返礼品の選定について伺います。

政策
答弁

協議会設立が進めやすく
なるよう検討する

資料作成に係る紙代やコピー代については、支所または担当課が無料で対応していただきます。

他市町村の事例等もふまえながら、協議会の設立が進めやすくなるよう、検討します。

総務部
答弁

ふるさと納税を行う際に、寄附者の方がその活用目的として、地域づくり協議会の支援を指定できるよう条例改正を昨年しており、返礼品の選定についても、今後さらに魅力ある特典を揃えていきたいというふうに考えております。

質問

伊豆市内の
電気柵は安全か



(梅原正次議員)

平成27年7月19日、西伊豆町一色の仁科川支流で不法に改造された電気柵で、子どもを含む男女7人が死傷する痛ましい感電事故が

発生した。県では全域で電気柵の総点検を進めている。伊豆市内の電気柵の設置件数、不適合設置の件数、補助金無の電気柵の件数と安全対策の周知、注意喚起の対策について一般質問する。

産業部
答弁

適正な設置と注意喚起
の徹底で、安全対策を

伊豆市内の電気柵設置数は、市と国県の補助、中山間地域等直接支払制度によるものが合計700カ所あります。そのうち漏電遮断機の不備が2カ所、危険表示板の不備や消失等が、207カ所あり、指導しました。補助金を受けないで設置している電気柵もあり、今後、設置状況等を調査する予定であり、問題があれば、随時指導を行ってまいります。

このような事故を繰り返さないためにも、適正な設置と注意喚起を徹底していききたいと考えています。

質問

市長の役割と権限から「安保法案」をどう見ますか



(木村建一議員)

「武力攻撃事態等における特定公共施設等の利用に関する法律」では、自治体の施設を国が統治することができることになっています。「国防は国の専管事項」とはいえ地方自治の問題ととらえています。

また、政府は「自衛隊の支援活動は武力の行使ではない。拘束された自衛隊員は捕虜としての扱いを受けない」とのことですが、自衛隊員の法的地位はどうか。地方自治を率先する立場にある市長の所見を伺います。

市長
市答

慎重かつ合理的、論理的な議論の展開に期待

自衛隊の法的地位は、現状において極めて法的安定性を欠いていると考えております。本質的な問題の一つは自衛隊は軍隊か否かということ。もう一つは現在、国会で審議されている、集団的自衛権、集団安全保障の問題です。この二つは同根であって、私は国内法と国際法の乖離^{かいり}にあると考えています。

国会において、情緒論を廃し、慎重かつ合理的、論理的に議論が展開されることを、自衛官募集の事務を負う市長としても心から期待しております。

質問

伊豆市を描く、今後の取組み



(大川明芳議員)

伊豆市は、平成17年度に第1次行政改革大綱を策定して5年間取組み、第2次、第3次大綱も計画、継続し推進しております。

また、修善寺駅を中心とした整備等を、コンパクト化を進める「伊豆市コンパクトタウン&ネットワーク構想」を構築しているなかで、現在の進捗状況と実績はどのようなものか、お伺いいたします。

市長
市答

総合戦略の整合性を図り横断的な部会を開催

今年度策定を進めている総合計画や、地方創生の総合戦略との整合性を図りながら、プロジェクト毎に庁内横断的な作業部会を開催し、各地区のまちづくり等において、ご意見を伺うワークショップも逐時開催しています。文教ガーデンシティ構想の日向地区エリアの新中学校建設準備は、現在、策定作業に入っており、今回の補正予算において土地取得業務・不動産鑑定業務・用地測量等業務委託をお願いしているところでです。

質問

伊豆市の人口減少・少子化対策について



(永岡康司議員)

現在、伊豆市は、高齢化と子供の人口が減少する、少子高齢化が進んでいます。

最も重要な課題は、人口減少対策、少子化対策です。若者が都市へ流出する中で、どうしたら呼び戻せるか、そして、結婚や出産の促進は最優先の課題とし、結婚相談の会・婚活イベント（iリーグ）等は積極的に関わっていくべきと思いますが、考えを伺います。

市長
市答

結婚を希望する方々に市がお手伝いをする

結婚相談の会は、市民課が事務局で19名の相談員の方に取り組んでいただいています。iリーグは、会員制で、現在女性676人、男性940人合計1千616人の登録があります。伊豆市を知っていたくことが目的でもあり、年6回程度市内の各所でイベントを実施しています。

今後も婚活、出合いを創造するイベントは続けていきたいが、抜本的な解決策というよりも結婚を希望される方に、市としてのお手伝いだと思います。

質問
伊豆市都市計画マスタープランの目標年次



(山田元康議員)

「伊豆市の新しい都市計画検討委員会」より中間提言書が提出されました。伊豆市では旧修善寺町の時、田方広域都市計画区域に入

って以降、40年間都市計画が変更されていません。現在、市長の言う伊豆市コンパクトタウン&ネットワーク構想の取り組みの中、伊豆市都市計画マスタープランは概ね20年後の平成44年と設定した理由は。

市長 長弁
マスタープランは、将来に向けての第一歩

土地利用というのは、かなり長期的な視点に立った事業が必要であり、10年から30年後の市や国の姿をも考慮して進めていきます。長い時間をかけて、考えるスタートだと思っています。

建設部長 長弁

都市計画マスタープランは、国土交通省の運用指針に基づき、その中で建築物の更新間隔が概ね20年であり20年後の都市の姿を展望し策定することが望ましい

とされ、県も20年後と設定しており、伊豆市でもそれと同様なスタンスで策定しております。

質問
市民が信頼する市役所像の模索



(小長谷朗夫議員)

市民の皆様の中には市役所像はどのように写っているのでしょうか。職員の窓口業務を始め各部の事業推進など信頼関係の上に立つて成立しているのでしょうか。

より高い信頼関係構築のため、①現状をどのようにに評価しているのか、②信頼を獲得するための方策は、③資質向上のための研修計画は、④年度末の人事異動の重点は、の4点について伺います。

市長 長弁
職責に応じた人材育成の組織構築が課題

市民の方から「質問や要望の回答が遅い」「マナーの欠如」など、ネガティブな職員像が指摘されています。

自治大学校や集合教育などはありませんが、人材を育成する時間がありません。職責に応じて自信を持って部下を指導できるかというところが、悩ましいところです。これを組織的にどう構築していくのか、正直いって一番苦しいところです。

年度末人事は、職員の最大限の適材適所に配慮しながら行うことにつきます。

質問
5年後、10年後の伊豆市をどう導くか



(青木 靖議員)

伊豆市第2次総合計画が策定中だが、人口減少、少子高齢化、歳入減少を受けて、今後

市長 長弁
国際観光文化環境都市として雇用の確保を

伊豆半島全体の土地利用は、伊豆市から北と伊豆市を含む南は分かれています。田方広域から抜けることと、伊豆半島全体の広域連携事業を充実させることは矛盾しないと考えています。

10年後20年後、国際観光文化環境都市というなかで、自主財源の一つとして雇用所得を確保できる産業構造を目指すべきだと考えています。

生活保護や義務教育など国の事業を、市町村を通じて執行していますが、国の形を変えるべき時期に来ていると思います。

常任委員会行政視察

第1委員会

平成27年7月14日～16日

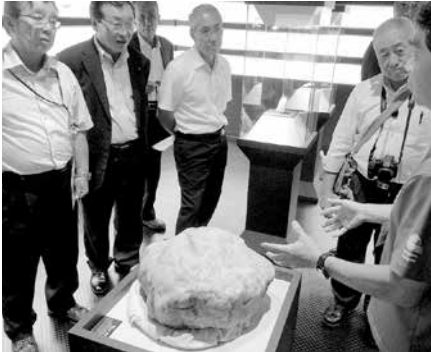
●北陸新幹線開業と糸魚川

ジオパーク戦略プラン

(新潟県糸魚川市)

糸魚川ジオパークは、国内で最初に世界ジオパーク認定を受けた。拠点施設であるフォッサマグナミュージアムを始めとし、24のジオサイトを有している。

「世界ジオパークのまち糸魚川のオンリーワンをみんなで輝かせよう」を基本理念に、ジオパーク戦略プロジェクトを実施している。



▲フォッサマグナミュージアムにあるヒスイの原石

●都市計画法による「線引き」

廃止の経緯と効果について

(長野県安曇野市)

安曇野市は、平成17年に5町村が合併して誕生した。土地利用制度がそれぞれ違う不公平感への不満などの問題を抱えていた。

新たな土地利用制度の方針決定、各種計画及び条例の検討にあたり、全戸アンケートの実施、地域住民との懇談会を重ね、一部地域で適用されていた都市計画区域の線引きを廃止し、自主条例により土地利用制度を一本化した。

●地域おこし協力隊の活動と

中山間地域の振興について

(長野県長野市)

長野市では、平成26年度から地域おこし協力隊が活動している。隊員の導入にあたり、各地域の住民自治協議会に出向き、地域課題に対する問題解決の当事者意識を持ち、家族として受け入れる覚悟があるかを調査し、隊員の配置を

希望するかどうかは地域に委ねた。募集にあたっては、田舎暮らし体験ツアーを実施して、実際に現地を見ていただくことで応募に結びついた。

第2委員会

平成27年7月15日～17日

●子育て支援日本一の

取り組みについて

(福井県勝山市)

勝山市は「子育て支援日本一」を目指して、①世帯の第3子以降3歳未満の保育料の軽減、②第3子以降の子を「かつやまっ子」として認定し、すくすく育成奨励金を交付、③子育て支援センターを設置し、未就学児童等地域の子育て支援の充実を図る等の様々な子育て支援策を展開している。

●中学校の統廃合について

(富山県射水市・新湊中学校)

生徒数の減少、校舎の老朽化等により、平成25年4月に新湊西部中学校と奈古中学校が統合され新湊中学校が開校した。

統廃合については、保護者や関係自治体の住民との意見交換会を

重ね、説明責任と合意形成に努めた。教育環境がよくなったと評価を得ている。



▲新湊中学校を訪問

●富山型デイサービスについて

(富山県富山市・ふるさとのあかり)

富山型デイサービスとは、普通の民家で、赤ちゃんからお年寄りまで、障がいのあるなしにかかわらず、同じ施設で同時に処遇する小規模・共生ケアである。

開設当初は、行政からの支援は受けられなかったが、法改正により現在は、介護保険上の指定通所介護事業所等で知的障がい者(児)のデイサービスの利用が可能となった。

平成27年
第2回臨時会

8月10日、平成27年第2回臨時会を開催し、市長から提出された報告1件、議案1件について原案のとおり可決しました。

報 告

◆専決処分の報告について（交通事故に伴う和解及び損害賠償の額の決定）

職員の公務中の交通事故で、和解及び損害賠償の額が決定したので報告するもの。

平成27年度補正予算

◆平成27年度一般会計補正予算（第2回）

天城地区に整備している社会福祉施設の障害者施設整備事業分の補助金を増額補正し、歳入歳出予算総額を159億6955万円とするもの。

平成27年第2回（8月）臨時会の賛否状況

■賛否が分かれた議案

件名	議決結果	永岡康司	三田忠男	小長谷朗夫	山下尚之	山田元康	青木靖	大川明芳	梅原正次	小長谷順二	西島信也	森島吉文	室野英子	森良雄	飯田正志	木村建一
予算																
平成27年度伊豆市一般会計補正予算（第2回）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○

～開かれた議会を目指して～

『みんなで語る会』を開催します。

伊豆市議会では、「開かれた議会」「住民が参加する議会」を目指し、議会改革特別委員会を設置し、「議会基本条例」の制定に向けて検討を進めています。また制定に向けて、条例案へのご意見をうかがうとともに、市政及び議会活動について市民の皆様へ報告し、ご意見や提言をいただくため、下記のとおり「みんなで語る会」を開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- ① 日 程 平成27年11月5日（木） 19時から20時30分
- ② 会 場 生きいきプラザ1階 第1・2会議室
- ③ 内 容
 - (1) 伊豆市議会基本条例（案）について（議会改革特別委員会）
 - (2) 平成26年度決算概要報告
 - (3) 「みんなで語ろう わがまちを」（意見交換）

※①産業振興、②防災・建設、③福祉医療、④子育て・教育の4つのテーマで、ワークショップを行います。

伊豆市議会基本条例（案）・ 伊豆市議会政務活動費の交付に 関する条例（案）に対する ご意見をお寄せください

伊豆市議会では、市民から託されたより良いまちづくりを実現するために、①議会機能の強化②開かれた議会③住民参加を大きな目的として、議会及び議員が果たすべき役割や議会運営の基本的事項を定めた「伊豆市議会基本条例」の制定を進めています。また、同時に課題の調査研究や研修会へ参加することで、議員の資質向上と議員力を高めるため「伊豆市議会政務活動費の交付に関する条例」の制定も進めています。皆さまのご意見をお聞かせください。

条例（案）閲覧方法 11月19日（木）から12月18日（金）まで、本庁1階ロビー、生きいきプラザロビー、各支所窓口、市ホームページでご覧になれます。

対象 市内在住・在勤・在学の方

意見提出方法 ①性別、②年齢、③意見を記入し、閲覧場所の意見箱へ投函、郵送、ファクス、市ホームページに掲載されているアドレスに投函の各種方法により提出してください。直接、本庁2階議会事務局へ提出することもできます。

※電話でのご意見はご遠慮ください。必ず文書での提出をお願いします。

意見募集期間 11月19日（木）～12月18日（金）必着

問合せ先 伊豆市議会事務局 電話 72-9906 / FAX 72-9907
〒410-2413 伊豆市小立野 38-2

議会傍聴・視聴について

本会議はどなたでも傍聴することができ、当日、本庁2階へお越しください。

なお、団体の場合は、事前に議会事務局までご連絡ください。

本会議の様子は、市のホームページからインターネットにより生中継と録画中継による配信もしていますので、ぜひご覧ください。

（議会事務局05558-72-9906）

12月定例会の予定

場 所	時 間	議 程
本庁2階 議場	午前9時30分～	議案上程
11月30日（月）		行政報告
12月2日（水）		一般質問
3日（木）		一般質問
7日（月）		議案質疑
17日（木）		委員長報告 質疑・討論・採決

※変更となる場合があります。ご了承ください。

編集後記

先月、日本の最も重要な統計調査である、第20回国勢調査が行われました。

国内の人口や世帯の実態を明らかにするため、法律に基づいて、大正9年から5年に1度実施されています。

国勢調査の結果は、福祉施策や生活環境整備、災害対策など、日本の未来をつくるために欠かせない様々な施策の計画策定などに利用されます。

第1回の国勢調査の人口は、約5千600万人でした。以降、調査毎増加してきましたが、本年の内閣府発表の人口推計によると、今回の調査結果からは減少に変わります。

伊豆市は毎年減り続けており、市からの流出を止め、流入を促すために良い教育、良い生活環境を必要とする、「文教ガーデンシティ構想」を進めております。

広報委員 大川 明芳